長ねぎ

○定植作業等の注意点について

３月も半ばを迎え、気温が徐々に高くなってきます。

来る定植作業に向けて、適切な温度・水管理を徹底し、健苗を育てることが重要となりますので、以下の点に留意しながら、日々の育苗管理を行いましょう!!

(1)　越冬苗

育苗期間が長いため、肥切れしている場合が考えられますので、液肥による追肥をします。

①　倍率…今時期は100倍（日照が強い日中は控える）

②　ハウスの換気を行う…湿気がこもりやすく、間延びしやすくなります

③　過灌水は控える…軟弱徒長しやすくなります

(2)　当年度播き

夜間被覆し、次の日に晴天日の場合、ハウス内温度が急激に上昇し、蒸れ苗や焼けてしまう場合があります。朝、温度が低くても、ハウス内の温度（モヤ）を除くために、短期間の換気を行いましょう。

また、換気の際は、直接冷気が当たらないように不織布（パスライト等）を張りましょう。

(3)　病害防除

小菌核腐敗病（湿度が高く、低温になると発生しやすくなります）。

○原因　過灌水・過湿により発生。
気温10～15℃　ハウスの通気悪く、湿度が高くなると発生。

○対策　一回の灌水量を多くし、回数を少なくする。
ハウス内の換気を行う。

○防除　定植時の灌注処理に使用しない薬剤を用いる。
例）定植時　トップジンM水和剤を使用
→　ベンレート水和剤　500倍　灌水代わりに（１箱／500mℓ）
定植時　ベンレート水和剤を使用
→　トップジンM水和剤　250倍　灌水代わりに（１箱／１㌧）

山うど

○温度管理に注意

３月に入り徐々に日が射す日も増え、日中はハウス内の温度も高くなります。また夜から朝方には低温に注意が必要です。低温時には被覆資材で低温障害回避に努めて下さい。

また日中の天気の良い日にはハウス内の温度管理に注意し、寒冷紗等を用いて品質保持に努めて下さい。

きゃべつ

○低温障害への対策は万全に

２月下旬より播種作業が徐々に始まっています。３月に入り温度も少しずつ上昇してきていますが、まだまだ低温には注意が必要です。低温障害を受けないためにも、ハウス内の温度管理には十分注意して下さい。低温が予測される場合は、被覆資材で被覆するなどして、ハウス内であってもトンネルを使用して下さい。

特に、ＹＲ初美は低温障害を受けやすいため注意して下さい。育苗期間中の水管理は、朝にたっぷり潅水し、乾くようであれば乾いた部分のみ潅水して下さい。３月下旬ころからはハウス内温度もあがるため、ハウスの開閉により温度調整をしっかり行い、徒長のないがっしりとした苗を育てましょう。

アスパラガス

○被覆資材での温度管理を

３月に入り、晴れる日が多くなってきています。夜も晴れるときは夜間の気温が極端に下る場合がありますので、低音障害を受けないように、被覆資材での温度管理をお願いします。また、気温が低くても朝方のモヤを抜くために短期間の換気を行なってください。

みょうが

○次年度の栽培（新植）について

・新植する場合の注意点は、できるだけ西日が当たらない場所や排水の良いほ場を選定し、根茎腐敗病対策に努めます。また、暗渠や明渠を行うことも重要です。

・10ａ当たり必要な種株は、300～400株、150～200kg（約10,000本）程度を用意し、１～２芽をつけ約15cmに切断した地下茎の病害のない物を種株とします。

・種株の消毒は、ランマンフロアブル200倍を30分間浸漬し、処理後乾燥しない場所で保存します。

・10ａ当たり基肥の施肥量は、完熟堆肥３㌧，てんろ石灰100kg、ようりん60kg、みょうが専用肥料100kgです。

・畦幅100～120cm、畦の高さ20～30cm、通路50cm程度、条間30cm、株間15cmの２条植えを基本とします。

・植え溝は６～８cmにし、定植後覆土・鎮圧をします。

牡牛座（4・20～5・20）　サービス精神を発揮することで人気運が高まる兆し。困っている人には救いの手を差し伸べて。少額募金も◎